

人の感情を表現したい。

見る方向によって変化する色や形を、人の感情に例えて表現しています。
コロナ禍で公募展に出品できなかった残念な気持ちや制作途中のひび割れで
作品を完成させることができなかつた鬱屈した気持ちを、この作品に込めています。
題名の『新奇深藍』は、目新しく珍しいという意味があります。



令和3年度 長崎県高等学校総合文化祭 【美術部門】 工芸部門
優秀賞 『新奇深藍』 *作品は2年次に制作したものです。

ここに注目!

過去最高額を更新

一般会計予算

はさみ 

No.158 令和4年5月号

議会だより

今月の
はさみの人

やまさき み お
山崎 未緒さん
波佐見高校 美術・工芸科3年



111億1000万円を計上

前年度比 26億6900万円 31.6%増

3月定例会において予算特別委員会を設置し、令和4年度の一般会計予算、国民健康保険事業特別会計予算など4つの特別会計予算及び上水道事業会計など2つの企業会計予算を審査し、すべて全会一致で可決。（予算特別委員会の主な質疑については、P4～P5に掲載）

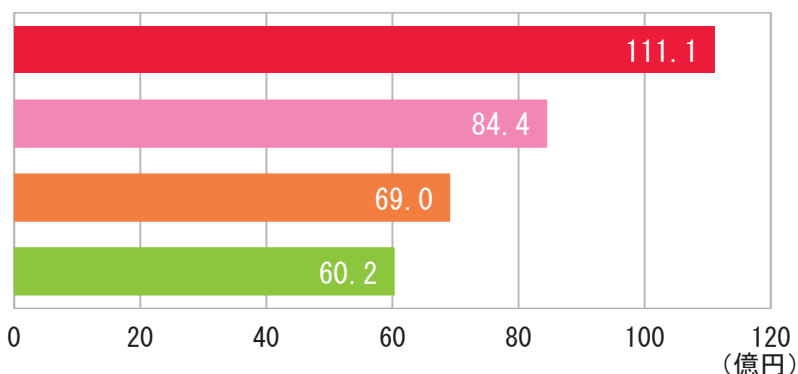
一般会計当初予算の推移

令和4年度 111.1億円

令和3年度 84.4億円

令和元年度 69.0億円

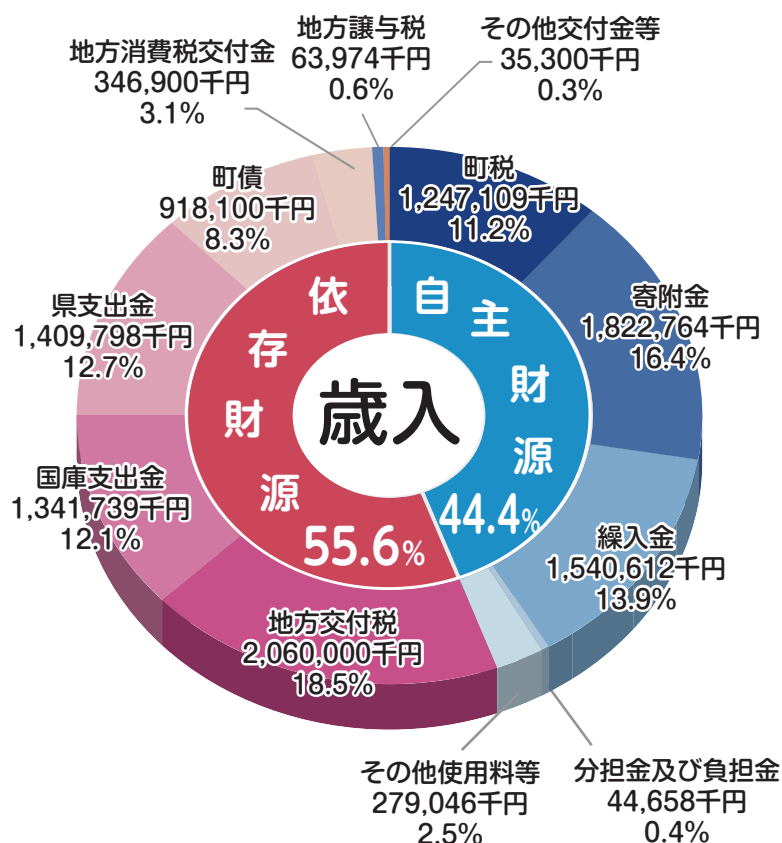
平成29年度 60.2億円



近年、新型コロナウイルス感染症対策費や、ふるさとづくり応援寄附金などで大幅な増額となり、平成29年度と比べ、85%(50.9億円)増の予算計上となった。

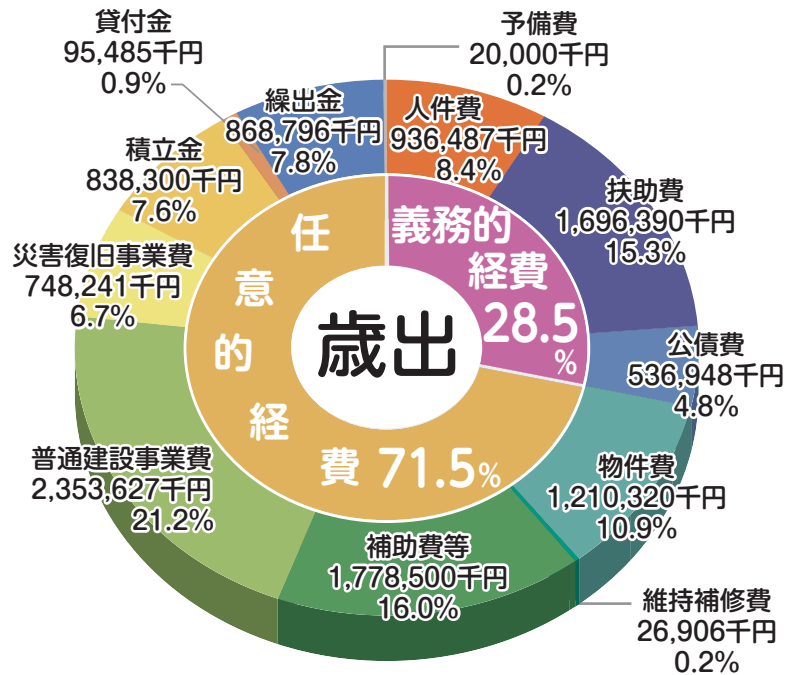
歳入

- ・町民税全体は、前年度10.4%増を見込み約5億400万円を計上。
- ・国・県支出金は、3年8月豪雨被害に伴う災害復旧事業費補助金やコロナ感染症予防接種に関する負担金など、約27億5200万円を計上。
- ・ふるさとづくり応援寄附金は3年度決算見込み(約21億円)を勘案し、18億円を計上するなど大幅な増額となった。



歳出 (性質別)

- ・新型コロナウイルス感染症対策費に、総額約2億円を計上。
- ・新庁舎建設事業に、約10億8000万円を計上。
- ・8月豪雨による農地等地すべり復旧事業に、約7億2400円を計上。



ふるさとづくり応援基金 活用基金総額 7億1000万円計上

(1) ふるさとを元気に楽しくする活動に関する事業 1億7600万円

- ・定住奨励金や移住・居住費用等支援、空き家対策などの「移・職・住」促進事業
- ・観光客拡大のためイベント開催や施設の整備などの波佐見ファン拡大事業
- ・廃石膏型のリサイクルや就農者の支援などを行う窯業・農畜産業振興事業
- ・プレミアム商品券や商店振興会の活性化支援を行う中小企業・事業者支援事業

(2) 懐かしい景観、新しい町並み整備に関する事業 1億7400万円

- ・道路改良、桜つつみ河川公園などの路面改修や施設の補修を行う町並み整備事業

(3) 未来に伝えたい伝統文化の保存、整備に関する事業 1050万円

- ・無形民俗文化財の映像記録、中尾・鬼木郷の景観保存の調査などの文化推進事業

(4) 次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業 2億8100万円

- ・保育士の確保や保育所等施設の整備に支援する保育士・子育て支援事業
- ・波佐見高校支援、大学生等の奨学金返還支援を行う学生等支援事業
- ・小中学校トイレ改修（洋式化）や各学校の設備改修などを行う教育環境整備事業

(5) その他町長が必要と認める事業 6850万円

- ・自治会要望の交通安全施設や防犯灯の整備、災害避難所の改修を行う安心安全まちづくり事業

予算特別委員会 Q&A

令和4年度一般会計予算に関する289件の質疑の中から主なものを掲載します。

総括

Q コロナ対策の総額は。一般財源からの持ち出しは。

A 2億円を計上。町の負担は3千万円。「ふるさとづくり応援基金」から支出する。

Q 重点施策は。

A 庁舎建設・災害復旧・ふるさと納税・DX関連。

Q 官製談合事件をふまえ、入札等ではどんな対策を講じているか。

A 2段階ランダム化の仕組みを導入。文書管理も厳正に行い、職員倫理研修にも取り組んでいる。

歳入

Q RVパークの利用状況は。

A 20件を超える月もあった。4年度は平均20件を上回る見込み。

Q 自動車税等、税収の3年度の主な決算見込みは。

A 軽自動車税は約6204万円、たばこ税は約8368万円を見込んでいる。

Q 法人税の大きな減収は。

A 大企業のコロナ禍による減収が主な要因である。

総務費

Q 第6次総合計画の委託先及び委託内容は。

A 「株ぎようせい」に、アンケート・ワークショップ・印刷業務までを委託する。

Q 移住定住等人口減対策の補助金は。

A 実績に基づき結婚・新婚生活補助金300万円。60万円の5件で29歳以下が対象。30代は30万円。

Q 波佐見高校関連のNPO法人への補助金300万円は、10年間を見通しての額か。補助内容は。

A 立ち上げへの補助で3年間で予定。事務局長及び食事担当者の人件費として月額25万円。

Q 鴻ノ巣公園のキャンプサイトパーク事業の概要は。

A 本体工事は3月末に完成。電気その他の設備も秋までには整備完了の予定。



キャンプサイトパークのテント

Q 防犯灯の費用は。農作物に影響の少ない光害対応の防犯灯もあると聞くが。

A 新たに立てると11万6千円。光害防止については研究したい。



防犯灯

民生費

Q 約10億円の児童措置費の内容は。

A 保育所・認定こども園に、預かる人数に応じて人件費・事務費等の運営費を補助。

Q 誕生祝い金300万円は何名を予定しているか。

A 第3子以降、1人10万円、30人分を予定。

衛生費

Q 環境衛生作業員の増員は。

A 例年通り6名体制。年間を通じた作業量で計上し、今のところは対応できている。



Q 町民霊園の継承できていない墓はどうするのか。

A 改葬するか、無縁墓地とするか、その墓を新たに一つの区画として利用者を募るか、今後何らかの方向性を出す必要がある。

Q 環境保全条例制定の予算は。

A 特化して予算計上していない。必要な場合は補正で対応したい。

Q 浄化槽整備事業の内訳は。

A 30基を予定。増築部分は補助対象外なので、町単独で補助。

農林水産業費

Q 新規就農者への支援は。

A 駄野地区のイチゴ農家が対象。

Q 森林環境譲与税の活用事業は。

A 保育間伐に充てる。

Q 防災重点溜池の調査内容は。

A 水が抜けた状態の堤体を目視により調査し、結果次第では工事を行う。(所有者の負担は1割)。

商工費

Q 新幹線開業に向けた予算は。

A 特化した事業としては、鬼木古民家整備事業と佐賀・長崎デステイネーション事業がある。



鬼木の古民家 (旧 福田清人邸)

Q 廃石膏リサイクル事業はどうなっているか。

A 4年度が最終年となり工業的リサイクルを確立しようとしているが広がらない。中間処理業者と安く処理してもらうよう交渉中。

土木費

Q 町道工事の順番の決め方は。

A 地区からの要望順。現地状況を見て、交通安全面や地区にかたよりにないことなどを配慮している。



舗装された町道

Q 西ノ原土地区画整理事業の見通しは。

A 住民との協議を深めながら事業の見直しの検討作業を進める。

消防費

Q 消防団員報酬の直接支払は検討しているか。

A 出動手当は個人の口座に、報酬は分団に支給している。直接支給について検討する。

教育費

Q 英語検定負担金の内容は。

A 中学3年生が対象。3級受験者に4800円、50人分を計上。

Q スクールバス利用者は月600円、タクシーでは2400円程の負担。何とかならないか。

A 徒歩通学が基本。今のところは現行通りでお願いしたい。

Q 学校給食支援事業補助金の内容は。

A 就学児童の第2子は半額、第3子以降は全額免除とする。

押印廃止に伴う関係条例の整備に関する条例

可決

<提案理由>

国や県において、行政手続きにおける押印廃止に向けた取組みが進められている中で、本町においても行政手続きの簡素化を図るため、関係条例において所要の改正を行うものである。

<押印見直しに伴う関係条例の整備に関する条例>

- 第1条 波佐見町印鑑条例（昭和49年波佐見町条例第24号）の一部を改正する。
- 第2条 波佐見町固定資産評価審査委員会条例（昭和31年波佐見町条例第32号）の一部を改正する。
- 第3条 職員のサービスの宣誓に関する条例（昭和31年波佐見町条例第13号）の一部を改正する。**※宣誓書への押印を削除。**
- 第4条 波佐見町火入れに関する条例（昭和59年波佐見町条例第13号）の一部を改正する。**※火入れ許可書の申請者の押印を削除。**

<支出根拠書類の押印>

- 「契約書」「協議書」「覚書」・・・押印を存続。
- 「入札書」・・・電子署名を用いた電子入札以外は押印を存続。

波佐見町建設土木事業分担金徴収条例

可決

<提案理由>

波佐見町内で施行される建設土木事業に充てるため、地方自治法第224条の規定により徴収する分担金について、同法第228条第1項の規定に基づき、必要な事項を定めるために制定するものである。

<条例より一部抜粋>

- 第2条 町長は、町又は県が施行する建設土木事業に要する経費の一部について、当該事業により特に利益を受ける者（受益者）から分担金を徴収する。なお、受益者の範囲については、関係者において決定する。
- 第3条 分担金を徴収する建設土木事業は下表のとおり。
- 第4条 徴収する分担金の額は下表のとおり。（一部抜粋）

事業名	事業主体	区分	分担金の率
急傾斜地崩壊対策事業	県	公共関連	総額の100分の5
		その他	総額の100分の10
急傾斜地崩壊対策事業	町	—	総額の100分の20



※100円未満の端数がある場合は、これを切り捨てる。

崩壊した急傾斜地

賛成
討論

脇坂 正孝 議員

この条例案は、急傾斜地の地すべりや崩壊等の拡大防止のため、主として私有地を対象に適用される。事業費の一定額は関係者負担となるが、更なる災害を防ぎ、国土保全、生命・財産を守るためにも、条例化は必要である。

9人が
登壇

3月定例会 一般質問

令和4年3月定例会では、9人が下記の内容で一般質問を行いました。
3月定例会会議録は、5月下旬ごろ町ホームページに掲載します。

<https://www.town.hasami.lg.jp>

QRコードを読み取ると各議員の動画が見られます。



ページ	議員名	質問項目	ページ	議員名	質問項目
8・9	城後 光	※・施政方針	10	藤川 法男	※・企業誘致・交流事業 ※・地場産業の振興
	岡村 達馬	※・地方自治体の窓口業務 ※・町が管理する土地内(道路等)の民有地	11	澤田 昭則	※・施政方針
	田添 有喜	※・ふるさとづくり応援基金の効果的な運用 ※・防災行政 ※・町道の整備	12	脇坂 正孝	※・SDGs(持続可能な開発目標)の取組み
10	北村 清美	※・高齢者対策 ・職員採用の対策	13	岡村真由美	※・町民霊園 ※・施政方針
				三石 孝	※・施政方針

※は掲載項目です。

賛否表

○賛成 ●反対 ※議長は採決に加わりません。

		議席No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	審議の結果
		議員名	澤田 昭則	岡村真由美	田添 有喜	岡村 達馬	福田 勝也	城後 光	横山 聖代	三石 孝	北村 清美	脇坂 正孝	藤川 法男	今井 泰照	尾上 和孝	
3月定例会	予算	・令和4年度一般会計予算 ・令和4年度特別会計予算(4会計) ・令和4年度企業会計予算(2会計)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	専決処分	・令和3年度一般会計補正予算(第10~13号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	承認
	補正予算	・令和3年度一般会計補正予算(第14号) ・令和3年度特別会計補正予算(4会計) ・令和3年度上水道事業会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	条例	・押印廃止に伴う関係条例の整備に関する条例 ・波佐見町建設土木事業分担金徴収条例 ・波佐見町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例 ・特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例 ・町長及び副町長の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・波佐見町国民健康保険条例の一部を改正する条例 ・波佐見町消防団員の定員、任免、服務、給与等に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	その他	・字の区域の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決



岡村 達馬 議員



議員 国は地方行政改革推進のため、民間に委託できる公務の範囲を通知したり、示したりしている。本町ではどうか。

地方行政は社会情勢による人口減で厳しい状況にある一方、質の高いサービスを求められている。

自治体DXとは



城後 光 議員



町長 時代に合わせて行政を変えること

町長 DXで、行政サービスはどう変化するか。手書きで氏名住所を記入することなくタブレットで簡単に申請ができたり、役場に向かなくともインターネットを介して申請ができたり、コンビニで各種証明書の受け取りができるようになることなどを想定している。

自治体DXとは、デジタル技術やデータを活用し、業務の効率化や行政サービスの改善を進めながら、住民の利便性向上を目指す取り組み。

町長 先行している近隣自治体の調査・研究や派遣会社からの派遣という方法もあり、検討を進めたい。

している所もある。また民間のノウハウ導入により住民サービスの向上が図られ、職員は本来の職務に専念できている自治体もある。本町ではどうか。

町長 DXを進めていくうえでの課題は。まず、町職員の意識改革が必要。DXを

本町の税収は、人口減少下において大きな増加を見込めない。このため、職員数を大幅に増やしていくことは現実的ではない。



LINEによる情報提供、予約システム

議員 公有地については、維持保全・管理に良好な体制が図られていると思う。どの位の民有地があるのか。

町が管理する土地に民有地が多数存在する。公共用地の所有権が誰にあるのか不明確である。

町長 なぜ今DXに取り組むのか。限られた職員の数で自分たちの職場環境と同時に住民福祉の向上を

進めることが自らの業務改善を進めることに繋がるという意識を高めていく。次に、様々なデジタル環境に慣れない町民にいかに使いやすい状態を提供できるかは大きな課題である。利用できる行政サービスを少しでも増やしていく、簡単にサービスが受けられるという認識を高めるよう取り組んでいく。

町長 正確な把握と税対策をするべきでは。把握できているものについては対処していきたい。

今後、自治体DXに積極的に取り組んでいくという意識を感じたやりとりであった。新庁舎完成に合わせて一気に取り組んでほしい。

つぶやき





田添 有喜 議員

県管理の河川整備を

町長

予算に余裕がない



町民に対するさらなる啓発

議員 人づくり・まちづくり支援事業は、町の活性化に欠かせない事業だ。

交付金の増額は検討したい。補正で対応する。自治振興

町長 人づくり・まちづくり支援事業については、予算が不足した場合は

「ふるさとづくり応援基金」を効果的に運用し、「人づくり・まちづくり支援事業」や「自治振興交付金」の増額はできないか。

議員 「ふるさとづくり応援基金」を効果的に運用し、「人づくり・まちづくり支援事業」や「自治振興交付金」の増額はできないか。

町長は、かねてより「自治会の活性なくして町の活性はない」と話されている。

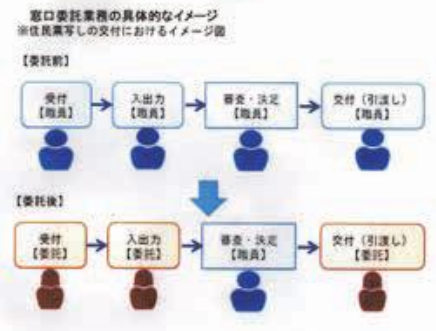
窓口業務民営化への取組みは

町長

調査・研究したい

町長 社会情勢やニーズの多様化により、人口減少だけでは職員数を語れないと思っている。

議員 窓口業務を民間委託している自治体には経費削減により出た成果を子育て支援事業などに充て



行政窓口のイメージ

参考資料：熊本県宇城市



荒れた河川

受け止め

長はどう

ことを町

とができる

とが定めら

れているか。

議員

河川法16条の3により町長は知事に代

り、住民の恐怖心は一層高まっている。

町長

と周知を図るべきでは。啓発と周知に努める。

近年の大雨や台風により、住民の恐怖心は一層高まっている。

のまま。

町長 用地交渉協議と橋梁改修に多額の費用が必要なことから完成は未定。

よって八島交差点は現状

か。

議員 町道八島・田ノ頭線の工事終了後、八島

交差点はどのようになるのか。

町長 本来県が管理する河川に対して、町の予算を投入してまで行う余裕がなく現段階では執行については考えていない。

町道や県道の整備は計画的に進められているが早急に改善すべき場所がある。

町長

今後、相続登記の義務化が予定されている。管理している公有地の

る。

議員 今後、相続登記の義務化が予定されている。管理している公有地の

る。

町長 約2800件、約29万5000件ある。

かつての農水省事業の対応に問題があると考えられる。

ふるさとづくり応援基金で多くの支援策が講じられている。

安全安心なまちづくりの視点で、県河川でも町長は整備を行うべきだ。

つばやき



八島交差点 (提案図)

行政改革も公有地の正確な把握も待たなし。特に

行政窓口の多様化と民営化は国の後押しもあり、早急な検討が必要だ。

つばやき

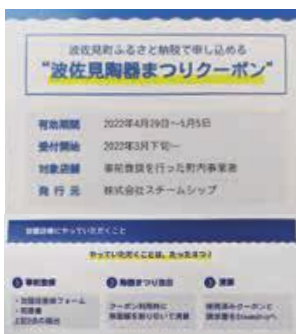


藤川 法男 議員



コロナ禍により社会のあり方や働き方に変革が生じており、更にはDXやSDGsへの取組も求められている。
サテライトオフィスなどDXやSDGsを意識した施設を設け、若手起業家に誘致や移住の

町は窯業界と協力し販路拡大を見据えたインターネット活用を促している。「販路拡大の研究に努める」とあるが、



ふるさと納税で申し込めるクーポン

等でその導入が進んでいる。農業経営には最先端技術による省略化、効率化を図る「スマート農業」への取組は重要な課題と認識しており、その導入や支援は検討を進める。

「支え合い」の推進を

町長

取組みは大変重要



北村 清美 議員

人口減少と併行し団塊の世代が後期高齢者に入ってくる中で、近々の対策として重点的に町民のための施策が必要である。
2025年の75歳以上の高齢者数は、独自推計2688人。全体の19・4%で約5分の1。
同じく2040年の高齢者数は、2808人。全体の24・7%で約4分の1。
「支え合いのまちづくり」の活動地区は、

井石・皿山・中尾・協和の4地区である。これを推進しているが現状の課題は、高齢化は確実に進み人材不足は顕著である。「自助・互助・公助・共助」のもと支え合うことと、必要性を町民に理解していただくことである。なかなか短期間では浸透しない現状があり、取組みにはリーダーが必要で、人材の掘り起しが必要。現役世代において将来の活動に向けた意識づけも重要。

今後の必要な政策は。「支え合いのまちづくり」の勉強会や意見交換会など、今後も継続していくとともに、希望する地区には積極的に足を運び、その地区にあった体制づくりの支援を行う。また、活動している地区との交流会も実施し、情報共有を図り、より良い活動できるように事業を推進していきたい。
支え合い勉強会の様子①



支え合い勉強会の様子①

つばやき
コロナ禍で思うような成果が出ていないが、支え合いスタッフの皆さんの地道な活動に敬服しております。頑張れ。



支え合い勉強会の様子②



澤田 昭則 議員



プレミアム商品券 事業は

町長

実施する



令和3年度の事業広告

町長 事業者の経営支援と町民の経済支援にもつながるので実施予定。

議員 経済対策で令和4年度も町単独「プレミアム商品券事業」を実施できないか。

終わりの見えないコロナ禍の中、町内の経済や消費も冷え切っている。

コロナ禍で 若手起業家の誘致は

町長

まずはニーズを見極めたい

町長 時代の潮流にあった施策であり、新たな仕事が生まれたり地域の交流拠点になる可能性も秘めている。
まずはニーズを見極め、現状の施設にWiFi環境を整備し、ワーケーション

ピールができないか。

議員 具体的などのような支援があるのか。

町長 大手ECサイトと提携し「はさみ焼」専用ページの開設と多くの消費者を取り込むため、クーポン事業を行う予定である。

議員 申請者数を増やすため補助額を増額できないか。

町長 方策として通年受付へ改善したことと併せ、4年度の当初予算に10件分増額した400万円を計上し事業を推進する。

議員 高齢者タクシー利用券助成事業が1年経過した。改善点や変更点はあるか。

議員 申請者数を増やすため補助額を増額できないか。

将来的にスマート農業の推進が叫ばれている。

議員 町はスマート農業をどのように推進するのか。

町長 現状としては、農薬用ドローンによる防除の実証をしたところ、有効が認められ農業組合法人

町長 対象を70歳以上に変更した。また、使用枚数の制限を撤廃し、申請手続きについても自動更新として更に利便性を図った。

議員 新型コロナウイルス感染拡大により学生も経済的な影響を受けている。

議員 前年度に続き「学生等臨時応援商品券支給事業」を早急に実施できないか。

教育長 感染症による経済的な影響を注視しながら協議のうえ検討したい。

議員 藤田雅敏様寄贈の「藤田コレクション」で企画展を開催する予定。

コロナ禍、プレミアム商品券事業は低迷した消費拡大促進の支援となる。

つぶやき

220程の取扱店は町民の協力で元気にあります。



波佐見町歴史文化交流館は開館1周年を迎える。
議員 記念行事の特別な計画は。
教育長 藤田雅敏様寄贈の「藤田コレクション」で企画展を開催する予定。

この2年間新型コロナの影響で仕事の形態も変化した。

つぶやき

町はアフターコロナを意識し計画を立てており、大いに期待する。





岡村 真由美 議員



町長 開園して47年経過した町民霊園には、運用にあたっての関連条例がある。

議員 墓標が無い区画が45もあるが、その理由は何か。また納骨は済んでいるか。

町長 35は使用権取得後、既に3年以上たつて

議員 実態は条例にそぐわない状況がある。霊園条例を見直す考えはないか。

町長 改正する考えは今のところない。

議員 町は2000万円を投じて野球部の寮を取得した。更に、NPO法人に年間300万円の運営費を予算計上している。

議員 これは保護者が納める寮費の軽減に反映されるのか。

近隣3高校の合格者数

校名	学科	定員	合格	倍率
波佐見	普通	60	31	0.6
	商業	40	25	
	美工	20	16	
	計	120	72	
川棚	普通	80	62	0.7
	生総	40	26	
	計	120	88	
佐世保東翔	総合	120	84	0.7

SDGsの庁内での取り組みは



脇坂 正孝 議員



町長 所管の業務の中で推進する

議員 町民や事業所等への周知・啓発はどうするの？

町長 広報紙やホームページなどで周知・啓発する。本町での実践例として、廃石膏リサイクルがある。窯業・農業・地域が連携してオール波佐見で取り組む地域内循環プロジェクト

国連サミットで「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現のため、2030年を年限とする17の国際目標が採択され、それは施政方針にも掲げている。



波佐見焼製SDGs啓発・普及用バッジ

議員 庁内における事業推進体制はどうか。

町長 行政の仕事は、どれもSDGsにつながるるので特化した体制の構築

トで、全国的にも高い評価を得ており、第2、第3の事業が生まれることを期待している。

議員 「町基本計画」などにどう反映するのか。

町長 基本計画では、各施策がSDGsの目標のどれに寄与・貢献するかを明示し、今後策定や改定する計画には、SDGsの観点も盛り込む予定である。

議員 児童生徒の指導はどうするの？

教育長 児童生徒にとつては、将来の自分たちの問題として家庭や学校、町内で感じることを通じ

は予定していない。

つばやき

庁内におけるSDGsの取り組みは、まだまだの感がある。もう少し積極的に推進すべきと思う。

て、丁寧な取り組みを行い「持続可能な社会の創り手となることができる」児童生徒の育成を図りたい。



三石 孝 議員

有機農業・加工所・周年出荷は

町長

今後、研究を進めたい



議員 所得向上への施策は。米価低迷対策として水田活用直接払い交付金に加え、環境保全型農業直接払い交付金の活用を進める。

町長 町内農業者の所得はどれくらいか。規模・形態がそれぞれなので、所得までは把握していない。

議員 農業者の所得向上、儲かる農業と言われて久しくなるが、一向に所得の向上がうかがえない。



JAS有機認証書

町長 有機農家は小さくてもある。JAS認証推進の補助金もあるので相談してほしい。

議員 有機JAS農業の野菜は高価で供給が不足している。SDGsとの観点から推進は考えられないか。

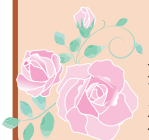
議員 農産物には旬というものがあって、青果での周年出荷は難しいとされている。しかし、日本の冷凍技術を活用すれば、流通に幅が出て周年出荷は可能になる。所得向上に結びつく可能

町長 今後、研究を進めたい。

議員 規格外農産物の加工品の販売は少量でも現金化できる。小さな加工所や仕組みをつくってはどうか。

国や県の施策といえども市町の職員なしでは実施できない。日々の業務に追われるようでは、基幹産業の農業は衰退の一途しかない。

つぶやき



町長

今後の課題として研究したい。

性もあり、研究を進めてはどうか。



第2の町民霊園を造るとしたら

町長

5400万円以上かかる

議員 使用権が消滅した区画の墓標及び焼骨の改葬場所についてどう考えているか。新たな改葬場所の確保は考えになかった。



墓標のない墓

町長 他寮との関係で寮費には反映されない。寮費補助があっても寮費自体が安くなれば、生徒は集まらないのでは。事態は急には変わらない。これからも最善を尽くして支援する。

議員 寮費補助があっても寮費自体が安くなれば、生徒は集まらないのでは。

町長 事態は急には変わらない。これからも最善を尽くして支援する。

無縁社会・多死社会となり、墓のあり様も変わりつつある。開園50年を機に、霊園条例を見直し合葬の場所も確保すべきだ。

つぶやき



総務文教委員会は、1月26日、総務課の調査を行った。

調査項目1 自治会未加入世帯の加入促進について

加入世帯は、1月26日現在 全5306世帯中4343世帯、加入率は81.9%である。最高は100%で3地区、最低は67.4%で70%未満が2地区であった。

自治会への加入促進については、自治会の役割や加入した場合の恩恵等について、HPや資料の充実を図り周知・啓発に力を入れたい。

【主な質疑・回答】

新しい自治会制度の研究が必要ではないか。⇒ 研究が必要と思っている。

アパートの家主等との協議はしているのか。⇒ 実施していないが研究したい。

《所見》

メリットや必要性が少ないと思われることが未加入理由の一つにあると考えられる。勧誘例として、コロナ予防接種での自治会の果たした役割、災害時の助け合い、子どもや高齢者の見守り、環境整備等、多々ある。デメリットの説明も併せて、自治会を理解していただき、加入促進につなげられないだろうか。



委員会の様子

調査項目2 各自治会における消防費について

分団消防費の調査結果では、各自治会消防費は団員一人当たり平均で最高44,138円、最低20,749円となり、分団間で差があった。

《所見》

調査結果として、分団間・団員間・負担する自治会間（自治会員）で差があること、自治会未加入者は負担していない現状があることなど、課題が判明した。このことは、各分団の活動内容にもよるが、支出（経費）との関連やこれまでの経緯もあり、難しい課題である。



消防団による消防出初め式

産業厚生委員会は、2月16日、建設課及び農林課の調査を行った。

調査項目 ①令和4年度の主な事業内容 ②災害復旧工事について

【建設課】

新規事業としては、重点景観計画の策定（～5年度）や町営住宅協和団地水道管敷設工事を予定している。

町道改良工事については、11路線と舗装工事が9路線、橋梁工事が5河川、そして西ノ原土地区画整理事業である。

災害復旧工事については、町道9路線10か所、普通河川4河川9か所、公園1か所の復旧工事を予定している。

《所見》

建設課の業務は、町民のライフライン整備が主なもの。昨年豪雨により被災した生活道路等、急を要する工事が実施される。

なお、西ノ原土地区画整理事業は、職員の体制を整え、事業の更なるスピードアップを期待したい。

【農林課】

新規事業としては、農業用廃プラスチック事業補助金等2件、土地改良面では、鶴の川堰改修工事、改善センター改修工事等外1件を予定している。

災害復旧工事については、農地28か所、農業用施設46か所、合計157工区。また、林道2路線で3か所である。令和5年度にかけて実施を予定している。

《所見》

災害復旧は、激甚災害の指定を受けるものの、改めて8月豪雨の爪痕は大きい。早期復旧が急がれる。

なお、環境保全型農業は、農薬や化学肥料の使用量を半減することで、支給される交付金。SDGsの観点から農家の挑戦に期待する。



8月豪雨の災害箇所

※発行済の広報内容の一部に誤りがありましたので、訂正しお詫びいたします。

【はさみ議会だよりNo.157 令和4年2月号】8ページ

産業厚生委員会レポートの【主な質疑】の中で本町の民生委員・児童委員協議会の人数を「39名」と記載していましたが、正しくは「31名」でした。

議会にタブレットを導入

3月から定例会でもタブレット使用を開始し、試行的に会議資料の閲覧や会議内容のメモを行なった。

最初の定例会での使用ということで、混乱も予想されたが、紙資料とタブレットを併用することで大きなトラブルもなく、スムーズな運用開始となった。

また本会議以外の議会審議においても、原則として紙資料を省くことで経費削減及び事務の負担軽減を図りたい。

紙資料の廃止を目指し、6月定例会では主にタブレットによる審議を行う予定である。今後は、タブレットの利点を活かし、デジタル化を進めることで、町民ニーズにあった行政及び議会活動の実施に向けた取組みを加速させていきたい。



タブレット使用の様子

4月1日から通年ノーネクタイを実施

これまで、クールビズとして5月から10月までの期間は、ノーネクタイで議会・議員活動を行っていた。全国的に働き方改革、環境負荷軽減、性差による受取り方の許容などを理由に、町議会においても、通年ノーネクタイの取組みを開始する。

フォーマルな服装が求められる式典などを除き、議員各人の判断でノーネクタイによる活動を認めることとした。



今後は本会議など、これまでと違ったスタイルで、議員活動を行うこととなります。ご理解をお願いします。

委員会 レポート

議会改革調査特別委員会

議会改革調査特別委員会は、議会改革の一環として、総括的に議論するために特別委員会を設置した。

令和3年6月15日から、4年3月までに計8回の委員会を開いた。

これまで、議員定数、各種事業の効率的な執行や事業に必要な予算確保等に対しての要望書提出の取扱い方、議会議員政治倫理条例の策定などについて熱く議論してきた。

政治倫理条例の主な内容としては、条例を制定しようとした目的、議員の責務などで、11条に及ぶ条文により構成し、6月議会での上程に向け、検討を進めていく。

今後は議員のなり手不足対策として、議員定数や議員報酬、政務活動費などについても調査・研究を行います。



委員会の様子

官製談合再発防止等 調査特別委員会 終了！

本委員会は、令和2年9月24日に発議された「官製談合の再発防止と職員の綱紀粛正を求める決議」により、「職員の定数の見直しと組織体制の充実」「コンプライアンス研修の充実と徹底」「財務法令等の順守と徹底」「職員倫理条例の早期制定」について強く改善を求め、官製談合等の事件を三度起こさないことや町民への信頼回復に最善を尽くすことを確認し協議を重ね、3年1月15日に提言書を町長へ提出した。

本委員会は、決議された内容について改善が見られることを確認し、同様の事件等が発生しないことを強く願い、4年3月16日付けで官製談合再発防止等調査特別委員会の役目を終えた。

なお、今後は常任委員会で継続して調査・研究を行うこととした。

傍聴者の声

3月定例会には延べ**15人**の傍聴者がありました。今回はケーブルテレビ視聴者の声も紹介します。

プレミアム商品券は全商店や事業会社も取扱店にできないでしょうか。小さなコーヒー館などでも使えたら良いと思います。同じ町民です。
(60代 男性)

予算特別委員会の質疑で細かい内容のことも重要ですが、大きな事業についてたくさん質問してもらいたかった。
(40代 男性)

議会当日、傍聴に行けなくてもテレビで後日、見られるので、波佐見の行政が少し理解できました。
(50代 男性)

今年度当初予算額がかなり増額しているのは、豪雨災害の復旧工事や新庁舎建設などの事業が加わっていることがわかった。
(50代 男性)

傍聴席で音声は聞きやすかった。テレビモニターも見やすかった。
(70代 男性)

一般質問では新年度事業に向けて様々な提案を出してほしかった。
(40代 男性)

傍聴者にも提案される議案内容の書類を配布してもらい、それを参考に、審議される様子を見てみたい。
(50代 男性)

予算特別委員会の質疑応答をテレビで視聴しましたが、長時間で疲れました。
(60代 男性)

お詫び

はさみ議会だより156号 及び157号でお伝えしていましたホームページへの会議録掲載時期に遅れがありましたことをお詫び申し上げます。

次回定例会は6月7日から16日までを予定しています。

編集後記

コロナ禍で三年目。最近では軍事侵攻、物価高など予想もできなかった事が多数起きています。本町においては災害復旧や新庁舎建設工事、また各課新年度の事業などがスタートしました。

「議会だより」の重要性を再認識しています。現在、議会は生中継でも配信していますが、「議会だより」には紙面で伝えていく大きな役目があります。

限られた紙面で内容を詳しくお伝えすることはできませんが、できるだけわかり易くお伝えします。今後ともご愛読よろしくお願ひ申し上げます。
(澤田 昭則)

議会広報調査特別委員会

委員長	北村 清美
副委員長	福田 勝也
委員	岡村 達馬
委員	岡村 有喜
委員	田村 真由美
委員	岡村 昭則
委員	澤田 昭則

発行責任者
議長 百武 辰美

